

青少年もがみ

第16号 平成24年8月1日
— 発行 —
最上地区青少年育成連絡協議会



「これまでと変わらぬ精神で、青少年育成連絡協議会を」

最上地区青少年育成連絡協議会会長 矢口 信 一

昨年は、4年ぶりに最上地区で開催された山形県青少年健全育成県民大会、そして8回目の最上地区青少年育成懇談会を、最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会と同青少年育成推進員連絡協議会との連携で盛会裏に幕を閉じ、有終の美を飾ることができました。

この2つの連絡協議会は、10年ほど前から合同で会議を開き、事業運営も一緒に活動してきました。元もと、両協議会は別組織で、半世紀の長い間、先輩諸兄が「地域の子どもは地域で育てよう」と人づくり、地域づくりに手をたずさえて事業を展開されてこられました。今年度から両組織を統合し、「最上地区青少年育成連絡協議会」と名を換え、これまでと変わらぬ精神で青少年健全育成活動に邁進してまいります。

さて、最上地区の小・中・高等学校において、7月7日に「ノーテレビ、ノーゲーム、ノー携帯デー」を実施しました。今、戸沢村では、「テレビ見過ぎでねが?」、「ゲームし過ぎでねが?」の2色旗がパタパタ風にはためいています。村全体で、「セーブ、メディア運動」を展開しています。各家庭でメディアの利用方法を話し合い、家族の団欒や読書の時間を増やし、「社会性豊かで健やかな人間に」の輪を広げています。



「高萩市との児童交流について」

最上地区青少年育成連絡協議会副会長 大 山 孝 一

以前、新庄市と高萩市との児童交流が10年継続して行われてきましたが、担当者の異動等で交流が一時中断され、再度4年前から復活されました。これまでは、県の施設である神室少年自然の家を中心に活動してまいりました。しかし、新庄市にセミナーハウス（山屋地区）が設置されましたので、その施設を活用する活動に決まりました。

先日、施設見学を兼ねて、高萩市こども育成連合会の役員が新庄市を訪れ、交流打合せを行い3日間のスケジュールがほぼ決まりました。これまでの神室少年自然の家で実施されていた内容を新庄市バージョンに組み替えました。将来的には、参加する地元の保護者や山屋地域の方々、青少年育成推進員や高校生がチームを編成し、実行委員会を立ち上げられないものかと考えております。

企画は大人や高校生が担当し、指導の面は高校生に任せると考えております。そのためには、早急に高校生ボランティアの組織化及び保護者会の組織化や支援のあり方について、検討を進めたいと考えております。

2つの青少年育成関係連絡協議会が1つに統合

今年度6月5日に、最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会総会と最上地区青少年育成推進員連絡協議会理事会が合同で開催され、この2つの連絡協議会が1つに統合されました。これまでも両連絡協議会は、足並みを揃えて事業や予算及び会議などを一緒に執行してきたこと、さらに置賜地区や村山地区はすでに両組織が統合されていることが、今回の統合の背景にあります。統合された新組織の名称は、最上地区青少年育成連絡協議会となり、24年度事業計画案及び同予算案が承認されました。将来を担う明るく元気な最上地区の青少年の育成を目指し、これまで以上の活気あふれる諸活動が推進されることと思います。

新「最上地区青少年育成連絡協議会」の役員及び事業等について

1 協議会の目的

構成団体相互の意見及び情報交換を行うとともに、その協力連携を図り、次代を担う最上地区の青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

2 役員紹介

- ◇会 長：矢口 信一（戸 沢）
- ◇副会長：大山 孝一（新 庄）・笹原 祐一（金 山）・橋本 正（最 上）・矢口 智（大 蔵）
- ◇監 事：河端 孝成（真室川）・熊沢 健（大 蔵）・小松 功（真室川）・三上 一雄（金 山）

3 24年度事業

- 青少年育成活動情報誌「青少年もがみ」第16号・17号の発行
- 大人が変われば子どもも変わる県民運動：
重点期間7・8月、11月
- 有害図書類立入調査及び収集：地区内の本屋・コンビニ等
- 平成24年度「青少年健全育成県民大会」：
11月11日（日） 寒河江市
- 地区青少年育成懇談会：12月8日（土） 新庄市民プラザ
- 地区推進員研修会：
予定 11月17日（土） 鮭川村「農村交流センター」
- 地区青少年育成推進員機関紙「たづな」
第37号の発行：3月予定